

高校生と益田の社会人の対話プログラム (益田市のライフキャリア教育プログラム)



教育委員会だより

益田市教育委員会より 平成28年5月17日発行

第1号

「ひとが育つまち益田」をめざして

教育長 村川 修

益田市の施策が「ひとづくり」に重点を置いたものとなりました。

昨年度は6月に市長が主宰する総合教育会議で益田市「教育に関する大綱」を策定、10月に「益田市総合戦略」が策定となり、「ひとが育つまち益田」を基本の柱として、「教育」「人材育成」が大きく打ち出され、

子どもの教育を幼児期から高校生までを通して一貫性のある教育に取り組むことや、全国的に人口減少となり、地域の存続が大きな課題となった今、益田市という郷土をしっかりと知り、地域に誇りと愛着を持つよう育て、地域社会に貢献する子どもを育てることなどを大きな目標としています。

既にこうした新たな取組は始まっていますが、今年度の山本市長の「施政方針」

と「益田市教育行政の取組方針」で明確に表明し、今年度が本格的なスタートの年と言えます。

今までも、教育委員会では中学校校区を基本として、つろうて子育て協議会の設置を進め、各地域単位の教育環境づくりを推進してきたところであり、その目標とするところが市全体で組織も住民も一緒になって子育ての役割を担っていくことが明確になったことは教育環境の大きな推進になります。

このような大きな転換期に、教育関係者や子育てに関心を持っている皆さんの意識の持ち方や行動が今ほど重要な時期はありません。

子どもたちが未来を担う人間として、「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体

力」を育むために、学校と家庭、地域のすべての組織と人がそれぞれの役割を持って取り組んでいくことが求められています。

子どもたちには、大人が無理やり教えるのではなく、様々な体験や語り場など多くの機会の中で、ふるさとの先人や現在活躍している人たちが、歴史や文化に感銘を受け、「生きる力」を培っていくことが今の社会では必要です。

目次

表紙(活動紹介).....	1
教育長寄稿.....	2
教育情報.....	2
カラフル給食タイム.....	4
寄付・寄贈のお礼.....	4



教職員辞令伝達式を行いました

平成28年4月4日、市民学習センターにおいて平成28年度教職員人事発令通知書伝達式を開催しました。

これは益田市外から転任された教職員や、益田市内で異動のあった教職員の方々へ歓迎の意を表するとともに、益田市立小中学校教職員としての自覚を促すことを目的としています。

今年5名の校長をはじめ、事務職や期限付講師など、計104名の方が出席されました。出席者を代表



して、益田小学校佐々木直校長にご挨拶をいただきました。

また、山本浩章市長と村川修教育長からは、出席者に対して益田市の取組についての説明のほか、子どもたちの育成のために尽力いただくことへのお願いがありました。

異動された方々は環境が変わり戸惑いもあるかと思いますが、益田市の教育の一層の発展のためにお力を尽くしていただきたいと思います。

職員の異動がありました

平成28年4月1日付け人事異動による新任職員を紹介いたします。

教育総務課

課長補佐 山本 勝利①

主任 中田 香織②

技能指導主任

城市 強③

中島 利美④

大畑 勉⑤

寺田 哲児⑥

三浦 浩太⑦

西山 健二⑧

廣瀬 真治⑨

澤江 剛

(益田小勤務)

教育改革推進室

室長 城市 博明⑩

派遣指導主事

小石 伸江⑪

大畑 博重⑫

文化財課

課長補佐 桐木 恵子⑬

主任主事 嶺田 麻理⑭



社会教育課

課長補佐 伊藤 功二⑮

主幹 河本 昭宏⑯

主事 森 真登香⑰

人権・同和教育推進室

室長 田中 智⑱

美都分室

室長 吉野 聡子⑲

匹見分室

室長 藤井 文江⑳

よろしくお願ひします。

つむぎの出会いを通して

古文書（一通）が市指定文化財に指定されました

「ここで暮らしたい」と思えるような魅力があつて、その魅力がずっと続いていくまち。どうすれば、そんなまちになるのでしょうか。

益田市の大きな魅力の一つに「ひとの良さ」を挙げることが出来ます。では、その「ひと」は誰がつくってきたかという点、間違いなく、そこに住む「ひと」が、魅力的なひとを育んできたのです。

益田市には、魅力的なひとがたくさんいます。自分の仕事にやりがいを見つけて、その楽しさや喜びを次世代に伝えていこうとするひと。ボランティア活動を通して地域の中でいきいきと活躍しているひと。石見神楽のような伝統芸能の継承と発展に心血を注いでいるひと。そうした方々に共通しているのは、今を肯定

的に捉え、目の前のできることに精一杯取り組んでいくことだと思います。

「どんな仕事をしたいか」というワークキャリアのみならず、「どのようになりたいか」「どのようになりたいか」というライフキャリアについては学び考え実践することは、変化の激しいこれからの社会を子どもたちが生きていくために、とても大切なことです。

益田市では、昨年度、「益田市の未来を担うひとづくりに計画」を策定し、「ひととの出会い」を柱として、保幼・小・中・高の各年代で切れ目のないライフキャリア教育のプログラムを展開していくこととしました。皆さん、共に、子どもたちが魅力的な益田の大人の生き方に触れることができるような出会いの場・機会をつくっていきましょう。

平成28年4月21日に、^{ますだふじかねしよじょう}益田藤兼書状（三月二十日／^{きつぎべつつかしあて}杵築別火氏宛）が、正式に市指定文化財となりました。これにより市指定文化財は、99件となりました。

この書状は、中世において、現在の益田市域を中心に勢力をもっていた国人領主益田家の当主益田藤兼（1529～1596）が杵築大社（出雲大社）の上級神官の一人である別火氏に宛てた書状です。文書に年号は記されていませんが、時代状況や花押（サイロンの形状などから判断すると、1560年代後半から1570年代までのものと考えられています。

この古文書は、次の3点が評価されたことにより、市指定文化財に指定されました。

① 益田氏が杵築に「倉本」

と呼ばれる特権商人を置いたことが確認できること。

② 益田氏と出雲大社の上級神官との関係が確認できること。

③ 益田藤兼が発給した文書の本物として、益田市域に残る数少ない例であること。

なお、この古文書の購入にあたり、市民団体「日本遺産を目指す益田市民会議」が、市民から寄附金を集め、市に寄附されました。平成27年10月より実施され、平成28年1月18日に1381人分（1381千円）が寄附されました。これを受け、益田市が平成28年3月に、この古文書を購入しました。市民団体の皆様、寄附にご協力いただいた皆様に、厚くお礼申し上げます。

この古文書は、雪舟の郷記念館で開催されている寄

贈・寄託古文書等披露展「益田藤兼・元祥とその時代」で平成28年6月26日まで展示されています。益田市の歴史を感じることで、是非ご覧ください。





★3kg分を厚さ7mmに切って型抜き

感謝と願いを込めて
歴史の重みを振り返る!

長きに渡り市内の各学校へ給食を提供してきた益田市学校給食共同調理場はこの3月で閉所することとなり、47年の歴史に幕を閉じました。そこで3月の給食では、児童生徒の皆さんに「もう1度食べたい献立・思い出に残っている献立」についてアンケート調査を実施し、その結果を参考にして献立を作成しました。その結果、「益田鶏のねぎソース」「納豆サラダ」「魚のゆずソースかけ」といった児童生徒に人気の献立が目白押しとなり、旧施設を代表する献立を集中的に提供したとこそです。

メッセージを献立に込める!
 旧施設での最後の献立には調理場職員のメッセージを児童生徒に伝えたいという思いから、通常では施さない、ビーフシチューに「ラッキー人參」を取り入れることを試みました。「ラッキー人參」は少量の人參を星型に型抜きし、「入っていたら良いことがあるかも?」と人參が苦手な子どもたちに少しでも関心を持つて野菜類を食べてもらおうという取り組みです。

ビーフシチューの色合いからすると「ラッキー人參」を見つけないことやシチューに入れる食材は厚めに切り分けるため、型抜きする作業上困難な面もありますが、「好き嫌いせず、益田産のいろんな食材を食べてほしい」という職員の願いが当日の献立に込められました。

★3月24日の献立

ごはん、アーモンドあえ
 ビーフシチュー、牛乳
 白身魚の香草フライ



献立作成 齋藤 絵里

新施設で新たなスタート!

4月から益田市立高津学校給食センターが稼働を始め、市内の学校へ向けて給食の提供を開始しました。長い歴史によって積み上げられた益田市ならではの特色を生かしながら、食育や地産地消、アレルギー対応など、今日の学校給食に求められている意義をより具現化できるようにこれからも取り組んでいきます。

寄付・寄贈のお礼

益田市奨学金に寄付

- ・梅寿会 様
- ・乙吉町 田中 稔 様
- ・七尾町 故 石川 堅 様

市内小学1年生に寄贈

- ・ランドセルカバー
- ・益田あけぼのライオンズクラブ 様
- ・交通標識直線定規
- ・大畑グループ交通安全協議会 様
- ・防犯笛
- ・日本マクドナルド株式会社 様
- ・防犯ブザー
- ・株式会社エフエム山陰 様
- ・交通安全ぬり絵ほか

市内小中学校に図書寄贈

- ・株式会社エクシス 様
- ・市内 匿名 様
- ・安田小学校に書架寄贈
- ・遠田町 中島 道 様

新教育委員の紹介

3月31日付けで任期満了により平谷太委員が退任され、新たに4月1日付けで中野純委員を迎えました。

